

ぼらんは 4 周年を迎えました

反町カフェぼらん

～地域とのつながりを実感できた 4 周年イベント

私たちはいわゆる「よそ者」で、人も地域資源もまったくわからない中で反町カフェぼらんをオープンしました。今回改めて「地域を知ろう」というテーマで 4 周年イベントを開催しました。

11 月 3 日は、神奈川県いまむかしガイドの会に「反町カフェぼらん周辺歴史散歩」の企画をお願いし、初めてのまち歩きに挑戦。協会の理事・スタッフ、地元神奈川の人総勢 11 人が参加。反町駅に集合し、東横線跡地のフラワー緑道を通って、横浜開港時アメリカ領事館となっていた本覚寺に。

本覚寺は、青木城の跡地でもあります。青木城は北条早雲の家臣であった多米家の居城で、青木の名前は小学校の名前や地名として残っています。その多米家の家老が藤巻氏と栗田氏。参加した小学生のママが

「ああ藤巻さんね。子どものクラスにもいるわ」と。

途中の高島台にシェアハウスがあり、そこを中心に地域のコミュニティづくりをしている話を参加した区民活動センターの方から伺いました。他にも参加者が管理しているお地蔵さんもあり、ガイドの方も知らない地域情報満載のまち歩きになりました。

解散場所は、法華宗の豊顕寺。神奈川県の人には有名なお寺で、多米氏により建立。トロイを発掘したシュリーマンも来日した際、ここに立ち寄ってその風情を絶賛したとか。江戸時代は、僧侶の養成機関・学問所の「檀林」として多いときは 300 人もの僧侶が修行していたそうです。豊顕寺の総代表はカフェぼらんのお得意さん。毎週木曜日に午前中からカフェぼらんで読書をしたりしてゆったり過ごしています。

翌日の 4 日は、三ツ沢上町の自治会長・保護司で、今年 2 月に開催した WNJ 全国会議第 3 分科会で基調講演をしたふれあいっこ三ツ沢代表の小川真奈美さんから保護司の話を伺いました。

保護司は、保護観察官では充分でないところを補い、

保護観察所長の指示で保護観察期間にある人を社会の中で自立した生活を送れるように支援をする役割です。非常勤の国家公務員ですが、給与はなく無報酬です。神奈川県の保護観察下の人は神奈川県の保護司が担当するそうです。執行猶予を受けた人や出所近くなって仮釈放を受けた人達、多くは半年ほどの期間月に 2 回面談をして、悩み事を聞いたりしてその人が更生できる手助けをします。神奈川県の保護司の定員は 48 人に対し、実際は 38 人しかいないので、保護司は不足しています。任された期間だけ伴走支援をします。

更生とは、罪を犯した人が刑の執行後に普通の市民としての人生を送れるようになることです。

罪を犯した人もその尊厳と基本的人権を尊重され、社会内で地域の人々と共生できる環境を実現することは、罪を犯した本人の更生を支え、ひいては犯罪の減少にもつながります。

この思いで、小川さんは自治会やふれあいっこ三ツ沢の活動に力が入るとのこと。共生は協会の理念でもあります。

4 周年イベントには、ぼらんオープンの際に来ていただいた反町商店会の会長さんも参加。オープン当時は地域のいろいろな人と連携する余裕がなかったのですが、今後は具体的な連携の形をつくっていききたいと思いました。



■ぼらんは4周年を迎えました。

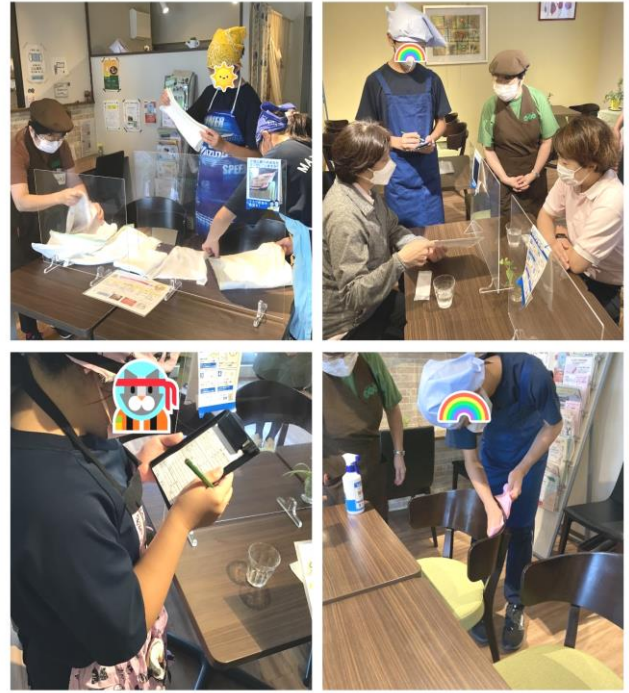
「反町カフェぼらん 松本中学校個別支援級職場体験実習」

この職場体験実習のお話はコロナ感染症の影響前にすでに話合いの場が持たれていましたが、約2年間職場体験実習が出来ない時期が続きました。

今年に入り、7月19日(火)松本中学校の先生2名、スクールソーシャルワーカー1名、反町と沢渡三ツ沢の地域ケアプラザ4名で話合いを再開しました。コロナ禍で職場体験実習が出来ずに卒業を迎える生徒さんの事を思うと、お店側としても協力していくことにし、実習に向けた具体的な話合いができました。

実習を始める1週間前の9月8日に、カフェぼらんで説明会を行うことになりました。説明会には先生3名と1年生~3年生10名の生徒が参加、「反町カフェぼらん」の発足経過~お仕事の手順、特にお客様対応の注意点などをまとめた資料をもとに説明しました。はじめて生徒さんたちと顔合わせが出来たことで緊張感無く実習できるのではと感じました。

実習日程は9月12日から26日までの5日間、10:30~12:30の2時間、2名で職業体験実習を行いました。期間中、毎回先生が生徒と一緒にお店にこられ、2時間の研修を温かく見守っていました。



体験最終日、無事に終了した時はこれまでの生徒さんを思い出しながらちょっぴりさみしさも感じましたが、私としては充実した5日間でした。

その後、「松本中学・カフェぼらん職場体験振り返りの会」が10月21日に行われ、前回と同じメンバーの方々の率直な意見交換の場となりました。最後に、来年4月以降に話し合いの場を設置することで合意。職場体験学習が途切れることが無いよう継続検討していくことを確認しました。

職場体験実習を終えて、「反町カフェぼらん」が子どもから高齢者まで地域の人々がつどい楽しむ場、学べる場に徐々になりつつあるのではと実感、居場所として色々な可能性が見えてきて楽しく思えるようになりました。

反町カフェぼらん事務局 斎藤扶美子

